

## 第34回 下呂市上下水道運営委員会

### 【議事録】

#### 1. 開会（事務局 部長 今村正直）

これより第34回上下水道運営委員会を始めます。

#### 2. 市長挨拶（市長 山内登）

お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。今回13名の内新たに8名の方に委員として出席していただくことになりました。3年間の任期ということですが、よろしく願いいたします。

上下水道の話は本当に難しく、専門的な知識が必要ですが、皆様からは生活の中で感じておられることを忌憚のない意見として伺いできればありがたいと思います。

前回3年間からお付き合いいただいています5名の方にも、意見をぶつけ合っているただけると幸いです。

最近は人口減少と管路老朽化の問題があります。能登半島地震などの災害を見ると、水道が止まる、下水が流れないなどの被害があり、これらが起こらないような上下水道を維持していきたいという思いです。下呂市は広く、その中に何十年前の水道・下水道管が多数あります。現在も至るところで漏水などがあり応急処置を行っている状況です。その繰り返しではよくないので改革を進めています。

人口減少により収入が減り、修繕には莫大な資金がかかる為、料金の値上げが必要です。今年4月に上水道と簡易水道の料金の統一を行いました。今後料金を更に上げる必要があります。値上げにより拠点等の整備を行っていく考えです。現在、水道の有収率は6割で4割は漏れています。長い年月をかけて修繕していく必要があります。

皆様からは本音として色々なご意見をいただきたいと思います。料金は値上げしますが皆様に責任はありません。下呂市長として責任を負いますのでご意見をいただければと思います。

次世代の環境の為に、どうぞ遠慮なくご意見ください。よろしく願いいたします。

#### 3.運営委員自己紹介

各委員が順に自己紹介

#### 4.事務局自己紹介

事務局職員が順に自己紹介

## 5.運営委員会について

事務局より資料に基づき説明

## 6.協議事項

### ①会長・副会長の選出について

会長は事務局の提案採用により、熊崎武司氏を選出

副会長も事務局の提案採用により、曾我純次氏を選出

（曾我純次氏は欠席であるが、事前に了承済み）

### ②運営委員会としての取り決めについて

事務局より資料に基づき説明

～会議を公開とするか、非公開とするか～

- ・自由に発言をしやすくする為、会議は非公開とする
- ・匿名での会議録の公表は差し支えない。

### ③下呂市の上下水道事業について

#### 〈水道事業〉

事務局より資料に基づき説明

#### 〈質疑応答〉

Q（委員）

3P の表で簡易水道の方が微妙に下がっているのはなぜか。

A（水道課長 岩田）

人口減少があります。

Q（委員）

上水道が下がっていないのはなぜか。

A（水道課長 岩田）

旅館が多くあり、お客さんが泊まられることが考えられます。

Q（委員）

簡易水道が限りなく 0 に近づいていく地区があるということは考えられるのか。

A（委員）

人口が 3 万人を切るところまで来ているが、0 にはならないと思う。だが、人口が減り収入が減っても維持にかかる費用は変わらないため、若干でも経営効率を上げるための改革だと思っている。

A（有識者）

下呂市全住民が上水道区域内に住めば簡易水道はなくなるが、考えにくい。それぞれ違う場所で生活しているので簡易水道の需要の方が高くなってくると思われる。

密集がない分、簡易水道の方がコストがかかると思われるが綺麗な飲料水を届けなければいけない。その点から今回の方針はいいと思う。

Q（委員）

過去、萩原地域の水道管が全域で繋がっているという説明を受けたが現在もそうなのか。

A（上下水道部長 今村）

緊急時に繋がっている管はあります。常時水が通っている訳ではないです。萩原以外では金山地域でも地区同士が近い場合繋がっている所があります。

Q（委員）

料金改定により料金総額が4%程昨年度より増えたが、4月以降市民から料金についての意見や問い合わせはあるのか。

A（水道課長 岩田）

特段ご意見はありませんでした。特段問題なく進んでいます。

Q（委員）

水道料金が上がって使用量は減ったのか。

A（水道課長 岩田）

生活に必要なものなので減ってはいないです。ですが節水器具は普及してきています。

### ③下呂市の上下水道事業について

#### 〈下水道事業〉

事務局より資料に基づき説明

#### 〈質疑応答〉

Q（委員）

以前浄化槽から下水道事業に切り替えた家庭は、再び浄化槽を設置するということになるが前の浄化槽を埋め戻していることがあるため困難ではないか。  
また、人口が減っていくので返還したがすぐ使わなくなるなどが考えられると思う。  
その辺りの計画はどのように立てているのか。

A（下水道課長 谷田部）

浄化槽設置は下呂市が行い、15年間は契約により名義は下呂市ですが、実際の維持管理は所有者になります。設置後、使用しなくなってしまうても個人の範疇です。

Q（委員）

浄化槽転換に向けて地元説明会を行ってみて、感触はどうか。

A（下水道課長 谷田部）

賛成が1地区で他7地区は反対意見があります。一人でも反対があれば事業を実施しないとしていますので着手が難しい状態です。アンケートを実施しましたが、反対意見としましては、田んぼに処理水を入れてほしくない、敷地に合併浄化槽を設置するスペースがない等があります。個人での合併浄化槽の維持管理にいくらかかるのか、どんな管理をするのか、臭いはでるのか等不安の声もあります。更に今後下水道を利用し続ける地区もあることから不公平感を感じられる方もみえます。

Q（委員）

過去、下水道への接続を推進した時期があった。今思うと下水道事業を料金収入のみで運営していくことは不可能である。だが、もう一度浄化槽に戻すというのには処理水の水質など不安の声があると思う。

A（下水道課長 谷田部）

処理水の問題につきましては、下水処理場の処理水と同等のものになります。昔はトイレの排水のみ処理する単独浄化槽でしたが、今どきは全ての排水を処理し、コンパクトで性能がいいものです。

Q（委員）

個人の管理になるので、定期的な清掃など問題や課題が出てくると思う。

A（下水道課長 谷田部）

大部分の方が、個人と管理会社で「らくらく一括契約」を結んでいただく事になると思います。管理会社が維持管理するので個人がやらなければいけないことはないです。ですので、維持管理も煩わしくないという説明も致しましたが、説明会では、今、委員がおっしゃたような意見もありました。

Q（委員）

合併浄化槽に切り替えた場合放流先の同意はとれるのか。以前同意が取れずに浄化槽を設置できない人がいた。

また、30年補償するということを聞いたことがあるが補償するのか。

A（下水道課長 谷田部）

放流先につきましては、下水道管渠を活用しご迷惑を掛けないところで放流する予定でいます。

A（下水道課 中川）

30年補償は管理業者と結ぶらくらくバック(らくらく一括契約)に含まれています。

Q（委員）

現在、転換計画地区にて家を建てようとしている人には、下水道への接続を推奨せず、合併浄化槽での処理水を下水道を使って流せるようにと説明した方がいいのではないか。下水道に接続してすぐ、合併浄化槽に転換ということになると理解を得るのが難しいと思う。

A（下水道課長 谷田部）

現在、下水道区域内である以上は例え転換候補地であっても下水道への接続を推奨しています。

Q（委員）

下水道への加入率が低い地域があり、加入率を上げるために工事などを行っているのに、これから加入率を下げるような計画を立てるのは今後の議論になってくと思う。その辺りはどうか。

A（下水道課長 谷田部）

片や加入率を上げようと、片や転換しようとしているので難しい話ではあります。料金改定の 1.6 倍というのは 8 処理区を全て廃止した場合の数字ですが、転換できなかった場合など今後検討していかななくてはいけないと思っています。

Q（委員）

合併浄化槽の方が災害に強いうえに、管理費も安くなってきている。今後人口減少に伴い料金の値上げはし続けなければいけないと思うので、合併浄化槽のメリットを広めるべきだと思う。

A（下水道課長 谷田部）

ありがとうございます。

〈今後の方針について〉

（有識者）

下水は使ったら水道と違い出ていくものなので滞留すると臭いなど消極的な部分が多い。ですが、環境を綺麗にしていくためには必要なのでフラットな目線で考えていく必要がある。震災などの観点からみると合併浄化槽の方が利点があり、下呂市の土地だからこそ合併浄化槽の魅力を使いこなしていく方がいいと思う。下水道料金が上がれば管理費もそこまで変わらないし、管理をしっかりとすれば水質も問題ない。その観点から市民へ説明していくべきだと思う。合併浄化槽の問題だけに限らず他の問題も納得してもらえるような答えをこの委員会で見つけていくのが大切だと思う。

④今後の運営委員会について

事務局より資料に基づき説明（14.15P）

次回 11 月 22 日（金）に決定

5. 閉会